

表彰案考発明県

発明賞を受賞

エコ和歌山の玉田さん

2020年度「県発明考案表彰」の発明賞に、紀南からエコ和歌山(田辺市稲成町)の施設管理部長、玉田卓さんが選ばれた。オーヤパイル(橋本市)、県工業技術センター(和歌山市)と共同開発した排水処理装置が評価された。19日、県庁で表彰式がある。

優れた発明や考案によって科学技術の向上に貢献した県民をたたえる表彰。発明賞5件、創意工夫労賞2件を選んだ。開発担当者の玉田さんは、オーヤパイルの大家健司社長とともに受賞した。

エコ和歌山などが開発したのは、県の地場産品である「パイル織物」を活用した排水処理装置。産業排水の浄化

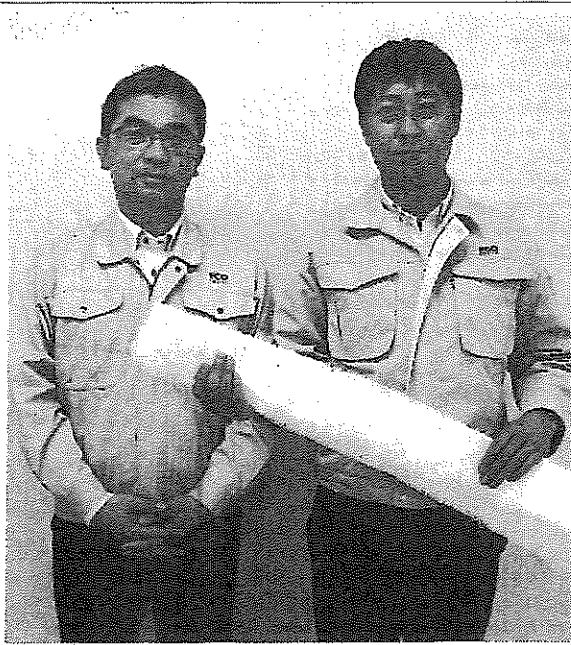
槽に微生物の「すみか」となるパイル織物を設置し、食物連鎖の活性化を促進。通常ではなかなか発生しないイトミミズを多く繁殖させた。その結果、産業廃棄物となる余剰汚泥を大幅に削減。環

境に優しい上に、産廃処理にかかる費用を減らすことができるという。

2015年に特許を取得。現在は梅加工会社など県内6カ所で導入されている。

玉田さんは「日々の業務の中で取り組んできたことが評価されて光栄」と話す。

エコ和歌山の中田祐史社長は「小さな会社だが、他の社員にとっても励みになる」と喜んでいる。



県発明考案表彰の発明賞を受賞したエコ和歌山の玉田卓さん(右)と、中田祐史社長(田辺市稲成町)で